



組織委員会への職員派遣のメリット



都資料 2 - 2

企画力・調整力の向上を図ることができます

- オリンピック・パラリンピック競技大会は、ボランティアや委託業者を含め、約20万人ものスタッフに関わる世界最大のイベントです。
- 大会準備・運営業務は、IOC/IPC等の海外機関との交渉、国内外への広報、国・関係自治体との調整、多くの選手・観客の輸送など多岐に亘ります。そうした経験を通じて、企画力・調整力の向上が図れます。
- 大会本番時は、限られた時間の中で臨機応変な対応が求められる場面が想定されるとともに、多くの関係者との調整を経験するため、状況に応じた判断力や調整力等の向上につながります。

民間企業のノウハウが学べます

- 組織委員会には民間企業からの出向者が多数在籍していますので、派遣職員はその仕事の進め方やスピード感などを身近に学ぶことができます。150社を超える様々な企業の出向を受け入れていますので、数多くのノウハウや多角的な視点も養えます。
- 民間の顧客視点を学ぶことで、窓口サービスや接遇の向上、各種計画への住民視点の反映に活かします。
- 派遣期間を通じて学んだノウハウは、派遣職員が派遣元に持ち帰り、それを自ら実践・活用することで、派遣元自治体の業務へ還元できます。

民間企業や行政団体とのネットワークが築けます

- 組織委員会では、民間企業をはじめ、国、都道府県、区市町村など、250を超える団体から出向を受け入れていますので、多種多様な企業・団体との人脈が形成できるとともに、業務においても多様な相手（国、自治体、スポンサー企業等）とのタフな交渉・調整を行うため、交渉力・調整力が向上します。
- 職員が構築したネットワークは、帰任後はもちろんのこと、派遣期間中からも、派遣元自治体の業務に活用することが可能となります。

ダイバーシティに対する意識が育ちます

- 組織委員会では、IOC/IPC等の海外機関との調整・交渉も多く、外国籍の職員と英語によるコミュニケーションを取る機会もありますので、日々の業務を通じて国際感覚を醸成できます。職員向けの英語学習を提供しており、語学力の向上も図れます。
- 多種多様な企業・団体や外国籍の方などと働くことで、多様性を尊重する意識が高まります。
- 職員が身につけた国際感覚や多様性を尊重する意識は、今後重要性を増す関連施策に活かすことができます。